

2010年

7月6日（火曜日） - 内面の健康と幸福 -

今朝、執務の前に、ある本の中から引用して書き留めておいた文章に目がいった。

「欲望を内にとどめ、忍耐強くあれ。夢や理想は自然に実現するのにまかせ、それらを現世で追い求めたいという誘惑には静かに抵抗せよ。夢や理想は自らの心の中で追求し、ついにはそれらを自我の中に消し去って、そのままそこに残しておけ。

少しばかり自己修練を要するかもしれないが、純真にして温和であれ。内面の健康と幸福に意を用いよ。幸福は花の芳香のごとく周囲に広がり、あらゆるよきことどもを自分に引き寄せる。

自分だけではなく、他人をも愛情をもって育め。生活に必要な事柄のために身を粉にするな。そうした事柄にそっと留意して心得ているだけで十分である。このようにすれば、ことはもっと自然に、楽に運ぶ。人生は楽しむためにある。」

文章中、「夢や理想は自然に実現するのにまかせ」や「生活に必要な事柄のために身を粉にするな」などの表現は、そこだけ切り取って表面的な語意のみ受け取ると、一見、怠惰を許容するようであったり、また懸命に一日一日の生活を切り盛りしている勤勉で真剣な日常の尊さを否定するようであったりするが、本意はそこにはなく、そのこと（いわゆる内面の外にあるもの）にとらわれ過ぎないように、とらわれが過ぎるとかえって夢や理想、幸福も逃げてしまうよ、というような意であると受け止めている。

誤解のないよう申し上げれば、日々、職務に全身全霊、勤勉を旨に励んでいくことは当然であるし、今後とも、日々の業務に誠心誠意、全力で尽くしていく。そのこととは別に、人生においてはもとより、よりよい職務遂行のためにも、勤勉、精励の態度と共存しながら、本質を深く味わいたい言葉である。まさに主題の「喜び発見」にふさわしい。